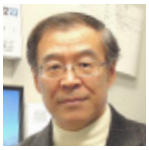
ADVANCE 北海道医療大学広報誌
2013 MARCH
No.154

札幌市立高等学校との連携事業 2012年度看護学科体験学習プログラムを実施［関連記事2ページ］

リハビリテーション科学部長就任にあたって



［2013年4月1日付］
リハビリテーション科学部長　泉　唯史

本学5番目の学部となるリハビリテーション科学部の学部長に就任予定の泉と申します。着任の時が近づくにつれ、非常に大きな役割であるが故に不安と期待が両極でますます膨らんでいく感覚でおります。

リハビリテーション医学は、他学部の学問背景や歴史と比較して、まだ若い領域ですが、その役割は極めて大きいと考えています。急性期･回復期･地域生活期のあらゆる時期において、さまざまな原因による障害を予防すること、あるいは軽減したり代償することにより、運動機能や精神機能、生活機能を最大限に向上させること、そして生活を豊かにすることができます。それが本来の医療の役割だとすれば、すなわち、リハビリテーション医療は医療の質を飛躍的に高めることを可能にします。

リハビリテーションの対象は3つの次元で整理することができるのではないかと考えています。まず年齢。小児から高齢者までのそれぞれ年齢特有の発達や退行の課題に向き合います。さらに疾患という次元。神経･筋疾患や骨･関節疾患、呼吸･循環･代謝疾患、がんや移植医療、あるいはスポーツ障害などに適切な介入が必要です。もう一つは急性期･回復期･地域生活期といった時相（phase）です。病気の治癒過程の中でリハビリテーション医療の適切な目標設定と介入方法の選択が求められます。

その上で、4つめの次元。リハビリテーション医療に対する新たなニーズや可能性を拡大していく「発展」という次元が必要となります。日々進歩している医学･医療の成果をリハビリテーション医療の新たな戦略にしていくという次元です。さらに、基本的人権や生命の尊厳としっかりと向き合い、リハビリテーションを必要としているすべての国民に対して、いかなる場面でもリハビリテーション医療を十分に提供できるシステムの構築と人材育成が、「発展」という名のもとに、どうしても不可欠な要素となります。

そのためには、十分に教育を受けた人材の輩出、どのphaseでもその役割を自覚できる人材の輩出、発展と責任をバランスよく実践できる人材の輩出、確固たる情熱と展望を持った人材の輩出が重要となります。

今後ますます既存学部との強力な連携や地域との密接な協働が必要となります。本学において社会に向けての新たな役割を担う学部です。ご指導とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

CONTENTS

リハビリテーション科学部長就任にあたって ―― 1
定年退職される先生からのメッセージ ―― 2
日本歯科医学会会長賞(研究部門)を受賞
札幌市立高等学校との連携事業
2013年度入試結果速報 ―― 3
札幌開成高等学校「プレ先端科学特論」の実施
同窓会活動状況 ―― 4
私の学生時代 ―― 6
授業レポート ―― 7
STUDENTS' ACTIVITIES & EVENTS ― 8
EDITOR'S NOTE

Message 定年退職される先生からのメッセージ

心理科学部　教授
及川　恒之

2006年4月に赴任しましたので、この3月で7年間、心理科学部にお世話になったことになります。それまでは研究機関におりましたので、赴任当初は「研究中心の生活」から、言語聴覚療法学科と臨床心理学科の解剖学と生理学を担当する「教育中心の生活」への変更ということで、多少戸惑いもありました。今では何とかこなせるようになりましたが、さすがに1年目は、医学部出身でそれなりの基礎知識はあるにしても、若干専門外の授業のために、新しい講義スライドやレジュメを作るなど、再勉強で大変でした。

本学に来てから、大きく認識を変えさせられたことは、研究と同様、あるいはそれ以上に教育が重要だということです。長い研究生活の中でいつの間にか無意識に身についてしまった、世界と戦う研究の方が教育より優れているというどこか傲慢な想いは、本学で教育を行っていくうち、そうではなく、日常において病める人に地道に手を差し伸べることこそ医療従事者として最も大切だという初心に戻してくれました。それは、入学当初は頼りなく子供だった学生たちが、教育に伴い、卒業時には大きく成長し、希望をもって巣立っていくまぶしい姿を間近に見て、彼らを応援していく中で再認識させられたことです。

在籍中、小生は多くの学生との交流を通じ楽しい時を過ごさせてもらいましたが、今、大学は少子化に伴う大きな社会変化の荒波にどう迅速に対応していくのかが求められています。本学も例外ではありません。本学科について言えば、言語聴覚療法学科の存在意義をどこまで社会にアピールでき、さらに魅力ある学科を作り優れた言語聴覚士を養成できるかは今でも大きな課題ですが、その達成にはこれからは今まで以上に困難が予想されます。今後は若い教員が中心となって、言語聴覚士の社会的認知の向上と、優れた言語聴覚士養成のための高度実践教育に熱意を持って当たり、困難を克服して下さることを期待します。

最後となりましたが、多くの教員と事務の方々はじめ、学生や同窓生の皆様に支えられ、ここまで来ることができたことを心より感謝申し上げます。今後の皆様のご活躍と、本学の更なる発展を祈念致します。

平井敏博客員教授が 2012年度日本歯科医学会会長賞(研究部門)を受賞しました。

平井敏博客員教授が、日本歯科医学会の顕彰する「2012年度日本歯科医学会会長賞（研究部門）」を受賞しました。

同賞は、我が国の歯科医学系学術団体の中核組織であり、各分野間を取纏める総合的な役割を担う「日本歯科医学会」が創設した賞で、専門分科会、認定分科会、歯科大学（歯学部）、日本歯科医師会から推薦された候補者の中から7名以内に選考し、研究部門、教育部門、地域歯科医療部門の3部門において表彰するものです。

平井客員教授は、歯科医学・医術研究に成果を収めたこと、歯科医学・医療の向上に特に顕著な貢献をしたことが認められ、今般「研究部門」において受賞しました。平井客員教授は、今般受賞した7名を代表し「これまでの活動は、決して一人では行うことはできず、そこには常に多くのスタッフがいた。すなわち、今般の受賞はそういったスタッフ全員の努力の賜物である。」と謝辞を述べられました。

なお、北海道医療大学からは2人目の受賞者となり、1998年に冨田喜内元学長が「教育部門」において受賞して以来となる大変名誉ある賞です。

札幌市立高等学校との連携事業 2012年度看護学科体験学習プログラムを実施しました。

2013年1月9日（水）、札幌市立高等学校（札幌開成高等学校、札幌清田高等学校、札幌新川高等学校、札幌平岸高等学校、札幌藻岩高等学校）の生徒47名が本学を訪問しました。この大学訪問は、昨年7月に札幌市立高等学校8校との高大連携に関する包括協定を締結後初の連携事業で、大学と高等学校の教育活動（授業等）に対する相互支援を目的に行われたプログラムです。

テーマは「体の内部の状態を知ることと看護への応用～血圧・脈・体温・呼吸の測定を中心として～」。午前中に本学看護教員による模擬講義を行い、午後からは3名1組になり、測定者・被検者・観察者の役割を交代しながらバイタルサイン（血圧・脈・体温・呼吸）の測定を実施。測定後にお互いの生活状況などをインタビューし測定値の意味を考えるなど、高校の授業とは違う大学の講義に自ら考察しながら積極的に参加している姿が見られました。

今回の体験学習プログラムが高校生の皆さんにとって、職業観の形成や進路選択・決定の助力となれば幸いです。

2013年度

入試結果速報

北海道医療大学

一般前期入試の志願者数は増加。

本年度は1月30日・31日の2日間の日程で、札幌をはじめ、東北から関東、関西、九州までの全国13会場で一般前期入試を実施しました。本年度はリハビリテーション科学部の新設もあり、志願者数は、昨年度より1,407名増え、3,235名でした。

センター前期入試は募集回数が2回。

センター前期Aは3教科型、センター前期Bは2教科型入試です。それぞれの日程に出願できるので、両方に出願した場合は合格のチャンスが2回に増えます。本年度の志願者数は、昨年度より286名増え、1,544名でした。

編入学2期に14名の志願。

編入学試験を札幌、東京、大阪の3会場で実施しました。全体で14名の志願がありました。

■2013年度 編入学試験(2期)結果

※(　)内は前年度実績

学部・学科名	入試形態	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
薬学部 ●薬学科	社会人	3(3)	0(1)	ー(1)	ー(0)	ー(ー)
	一般		4(2)	4(2)	3(2)	1.3(1.0)
歯学部 ●歯学科	一般	若干名(若干名)	2(2)	1(2)	1(2)	1.0(1.0)
看護福祉学部 ●看護学科	社会人	3(2)	3(0)	3(ー)	3(ー)	1.0(ー)
	一般		3(2)	3(2)	3(1)	1.0(2.0)
●臨床福祉学科	社会人	3(3)	0(0)	ー(ー)	ー(ー)	ー(ー)
	一般		0(0)	ー(ー)	ー(ー)	ー(ー)
	指定校		0(0)	ー(ー)	ー(ー)	ー(ー)
心理科学部 ●臨床心理学科	社会人	若干名(若干名)	0(0)	ー(ー)	ー(ー)	ー(ー)
	一般		1(1)	1(1)	1(0)	1.0(ー)
●言語聴覚療法学科	社会人	3(3)	1(1)	1(1)	1(1)	1.0(1.0)
	一般		0(0)	ー(ー)	ー(ー)	ー(ー)
合計		ー(ー)	14(9)	13(9)	12(6)	1.1(1.5)

■2013年度 一般・センター前期入試結果

※(　)内は前年度実績

学部・学科名	入試形態		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
薬学部 ●薬学科	一般前期入試	1/30	65(65)	246(193)	244(186)	121(126)	3.4(2.6)
		1/31		174(157)	164(142)		
	センター前期入試	A	15(15)	281(173)	281(173)	56(53)	5.0(3.3)
		B	10(10)	101(109)	101(109)	35(41)	2.9(2.7)
歯学部 ●歯学科	一般前期入試	1/30	25(25)	47(33)	43(30)	42(39)	1.6(1.3)
		1/31		26(22)	23(20)		
	センター前期入試	A	5(5)	130(89)	130(89)	115(81)	1.1(1.1)
		B	3(3)	30(42)	30(42)	28(36)	1.1(1.2)
看護福祉学部 ●看護学科	一般前期入試	1/30	40(40)	400(399)	388(392)	90(92)	8.4(7.6)
		1/31		380(314)	371(305)		
	センター前期入試	A	8(8)	308(212)	308(212)	41(40)	7.5(5.3)
		B	6(6)	118(114)	118(114)	29(29)	4.1(3.9)
●臨床福祉学科	一般前期入試	1/30	23(23)	162(121)	159(120)	178(126)	1.8(1.7)
		1/31		159(93)	155(91)		
	センター前期入試	A	6(6)	103(74)	103(74)	75(63)	1.4(1.2)
		B	4(4)	71(68)	71(68)	67(67)	1.1(1.0)
心理科学部 ●臨床心理学科	一般前期入試	1/30	27(27)	182(143)	179(142)	107(107)	3.2(2.4)
		1/31		169(116)	165(112)		
	センター前期入試	A	8(8)	134(111)	134(111)	55(55)	2.4(2.0)
		B	7(7)	96(95)	96(95)	51(49)	1.9(1.9)
●言語聴覚療法学科	一般前期入試	1/30	14(15)	168(128)	166(127)	81(77)	4.0(3.0)
		1/31		159(109)	154(106)		
	センター前期入試	A	8(6)	107(97)	107(97)	47(40)	2.3(2.4)
		B	6(4)	65(74)	65(74)	38(47)	1.7(1.6)
リハビリテーション科学部 ●理学療法学科	一般前期入試	1/30	43(ー)	257(ー)	256(ー)	79(ー)	5.8(ー)
		1/31		207(ー)	202(ー)		
●作業療法学科	一般前期入試	1/30	19(ー)	268(ー)	266(ー)	106(ー)	4.7(ー)
		1/31		231(ー)	227(ー)		
合計	一般前期入試	1/30	256(195)	1,730(1,017)	1,701(997)	804(567)	3.9(3.1)
		1/31		1,505(811)	1,461(776)		
	センター前期入試	A	50(48)	1,063(756)	1,063(756)	389(332)	2.7(2.3)
		B	36(34)	481(502)	481(502)	248(269)	1.9(1.9)

札幌開成高等学校特別講義「プレ先端科学特論」を実施しました。

2013年1月9日(水)と10日(木)の2日間にわたり、札幌開成高等学校コズモサイエンス科1年生25名を対象に、特別講義「プレ先端科学特論」を実施しました。

テーマは「自分の遺伝子を解析してみよう」。初日は本学個体差健康科学研究所太田亨准教授による遺伝子の基礎についての講義と、自分の細胞からDNAを抽出し、耳垢型を解析する実験を実施。2日目は京都大学医学部附属病院遺伝子診療部診療副部長の沼部博直准教授による講義「それ遺伝ですか?ー遺伝情報の伝え方ー」の後、初日の実験結果の確認や玉ねぎのDNAを抽出する実験を行いました。また2日間の成果について、グループ発表・全体討議を行いました。

遺伝子解析実験や最先端の講義など大学ならではの学問・研究の様子を知る機会を持ち、またその内容について理解と興味を深めることができた有意義な時間を過ごしたようでした。

薬学部

〈創立年:1979年　会員数:4,800名〉

薬学部
同窓会会長
田中　稔泰

薬学部同窓会は1979年に発足し、活動を行っておりますが、2006年からスタートした薬学部6年制の初めての卒業生を昨年の3月に迎え、新たな会員が2年ぶりに増えました。今後、新しい卒業生との交流が、今まで以上に各地域で深まって行くことを期待している次第です。

同窓会活動としましては、全国16支部（道内6、道外10支部）で活動を行っておりますが、会員数の増加に伴い道内においても、支部の細分化の動きが出ているところであります。その各支部では、毎年、医療薬学セミナーと同時に総会や懇親会を開催し、その地域での薬業、医療に関する情報交換を行っております。また、毎年開催される日本薬剤師会学術大会開催地においては、例年その地域の支部が当番幹事となり、懇親会を開催しております。同窓会の活動はこのような会員同士の交流を深めながら、それぞれの仕事やモチベーションを高めることを一つの目標としておりますので、全国の同窓生が一様に参画できるよう支部役員の協力を得ながら活性化を図り、行ってまいりたいと考えております。また、近年、私立薬学部の新設が相次いだことから、全国の私立薬学部において入学者の定員割れを起こしている大学もあり、今後厳しい状況が到来する可能性があると認識しております。我々同窓会としても、この点において大学に寄与できるように努力してまいりたいと考えております。

http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~phalumni/

歯学部

〈創立年:1984年　会員数:約2,800名〉

歯学部
同窓会会長
蓑輪　隆宏

関係各位の皆様におかれましては、本会活動に対し多大なるご協力とご理解をいただき誠にありがとうございます。

同窓会は、誰のため、何のためにあるのかという本質を会員の仲間と常に考えながら日々活動しております。

主だった活動は全国各支部で開催される歯科臨床セミナーや学術講演会の応援と親睦を目的とした懇親会の開催、歯科医師会はじめ他大学、他学部同窓会など、外部組織の方々との連携。学内においては大学関係各位の方々との情報の共有と関係強化そして準会員である学生への心のこもった応援であります。また広報活動として年一度発行される会誌とホームページであります。

今年度は30期生を正会員として迎え入れ、来年には本会設立30周年の記念事業が待ち受けており、忙しい年となりますが、皆様のご期待に応えられるよう、しっかり準備をして成果を上げたいと思っております。

会員の皆様、大学の皆様、そして次世代を担う可愛い後輩達が喜んでくれる活動を目指して志を共にする仲間達と全力で頑張ります。

状況は厳しいかもしれませんが、「明るく」「楽しく」「逞しく」しっかり前を向いて歩もうと思っておりますので皆様どうぞよろしくお願いいたします。

http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~d-alumni/
dousoukai-honbu@clock.ocn.ne.jp
事務局 札幌市中央区宮ヶ丘1-1-21
TEL 011-621-7403　FAX 050-3355-6837

看護福祉学部／看護学科・札幌医療福祉専門学校／看護学科

〈創立年:1997年　会員数:約2,000名〉

看護学科
同窓会会長
川村　武昭

福慧会（看護学科同窓会）は1997年に発足して、今年度で16年目を迎えました。また、看護福祉学部は開設20周年を迎えました。ひとえに卒業生の皆さまを始め、大学並びに諸関係団体の皆さまの日頃からのご協力のお陰であることに感謝しております。

主な活動内容としては、臨床福祉学科と協働で取り組む看護福祉学部同窓会セミナー及び看護福祉学部学会の企画及び運営を主軸に、4学部及び歯科衛生士専門学校とともに協働で開催する同窓会連絡協議会や同窓会コラボ☆講演会があります。また、これらの活動状況や各地で活躍する同窓生の近況報告等を卒業生の皆さんにお伝えするものとして会報誌（Fukuekai）の発行やホームページの運営、そして同窓生同士の繋がりを保つものとして福慧会会員名簿の発行を3年毎に行っています。そして、同窓会活動について話し合う場として理事会を開催しており、活動の幅は年々広がりをみせています。

今年度は「看護福祉学部20年のあゆみ」をメインテーマとした学部学会において、中島紀恵子先生のご講演を拝聴できたことはとても喜ばしいことでした。そして、一昨年の東日本大震災の発生を受けて、被災地で活動する福祉と看護の卒業生を講師として迎えて看護福祉学部同窓会セミナーが開催できたことも感慨深いことでした。これまでにない多くの同窓生の出席があったこと、そして被災地の現状を聴くとともに、それぞれの職種の専門性や他職種との協働について考え、お互いの思いを語り合える場を設けることができたことは、これからの同窓会活動が目指す一つの形なのではないかと感じているところです。

これからも様々な場所で奮闘している同窓生の皆さんの縦と横の繋がりが強く保たれるよう活動を続けていきたい、もしもの時の命綱になれるような活動をしていきたいと考えております。各期幹事をはじめ、理事一同で常に足下を見直していきながら、同窓生同士の交流と学校との繋がりを大切にした同窓会を目指して、これからも活動を盛り立てていきたいと考えております。随時、ホームページや会報誌をとおして活動状況をお伝えしておりますので是非ご覧ください。皆さまからのご意見やご要望をお待ちしております。

http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~kango/
kango@hoku-iryo-u.ac.jp

看護福祉学部／臨床福祉学科・札幌医療福祉専門学校／介護福祉学科

〈創立年:2000年　会員数:約2,000名〉

臨床福祉学科
同窓会会長
小畑　友希

「誰のための専門職であるのか。」私は1997年に第1期生として卒業し15年間、大学の学びで得たこの“変わらぬ本質”だけは忘れずにいます。一方で私たちを取り巻く環境変化は著しく、震災後の復旧・復興、超高齢化社会、経済的格差や貧困問題、また現場では、介護保険制度の改正や障害者自立支援法に変わる障害者総合支援法の施行など制度の対応に追われる日々です。しかしいかなる時も、目前のクライエントのために“本質”を見失わず、今に生かしていくためにも、専門家集団である同窓会の仲間たちとの日常的な連携協力、専門性の維持向上が大切と考えます。

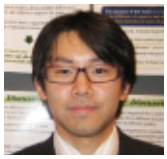
私たち同窓会は、母校や後輩たちに貢献したい思いから、一昨年より「国家試験対策講座」を年2回開催しています。また、看護学科と共催で「同窓会セミナー」を毎年5月に行っています。昨年は被災地で医療や福祉の専門職として体を張って活躍している卒業生を講師に招き学習しました。今後も同窓生が自己研鑽できる機会をもちたいと考えています。

最後になりましたが、日頃より当会の活動、運営にご指導ご協力賜りまして、心より御礼申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

fukudo@hoku-iryo-u.ac.jp

心理科学部／臨床心理学科

〈創立年:2006年　会員数:約500名〉



臨床心理学科
同窓会会長
本谷　亮

本同窓会は2006年に発足し、今年で7年目を迎えました。日頃の同窓会活動へのご理解とご支援に心から感謝いたします。

今年度は、役員を3名増員（副会長2名、会計1名）し、新たな同窓会基盤の元、活動を行って参りました。本同窓会発足以来、6名体制で運営して参りましたが、役員が全国に散らばり、重要な会議への参加が困難になり、会員数増加に伴う役員業務の負担が大きくなっておりました。また、役員の固定化を避け、本同窓会のあり方を広く見直すためにもテコ入れをはかろうとしたことも役員増の理由の1つです。

学部生に対する同窓会活動の周知、社会的ニーズが高くアップデートな話題を取り上げたセミナー開催、同窓生の目を引くような内容の会報誌作成など、学部生や同窓生の“生の声”を取り入れながら活動を進めていきます。そして、大学、他の同窓会とも連携を強め、同窓会活動のさらなる充実を目指しますので、今後ともよろしくお願いいたします。

http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~p.dousou/
shinri-dousoukai@hotmail.co.jp

心理科学部／言語聴覚療法学科・札幌医療福祉専門学校／言語聴覚療法学科・言語聴覚療法専攻学科

〈創立年:1994年　会員数:約820名〉

言語聴覚療法学科
同窓会会長
伊藤　傑

あいの里ST会(言語聴覚療法学科同窓会)は前身の札幌医療福祉専門学校言語聴覚療法学科同窓会から通算し創立19周年を迎え来年20周年目を迎えます。この間、脈々とあいの里ST会が成長し活動を行えたのも、現在全国各地で活躍している、同窓生をはじめとした皆様のご理解とご尽力の結果によるものと厚くお礼申し上げます。

昨年は主人公が言語聴覚士のNHKドラマ「はつ恋」が放映されました。日本言語聴覚士協会監修のもと制作され、高視聴率を記録するなど大変好評だったようです。まだ社会認知が低い言語聴覚士ですが、これをきっかけに徐々に社会認知も広まりつつあります。

今年も、役員会の実施、定例の総会開催や会報発行、「言語聴覚療法学科公開講座」、北海道医療大学同窓会コラボ講演会、各同窓会との「同窓会連絡協議会」の開催、さらなる同窓会ホームページの充実、ネットワーク形成など一つ一つでありますが、今できることを確実に改良・修正をし、同窓会活動の活性化を図っていきたいと考えております。

これからも大学や他学部・学科同窓会との繋がりを大切に、今後さらに、言語聴覚士の“北の拠点”として運営努力を重ねていきたいと思っております。

st-kai@hoku-iryo-u.ac.jp

北海道医療大学同窓会支部連絡先

■薬学部

支部名	支部長(期)	連絡先
札幌支部	多田 正人(4)	☎011-812-2311
道北支部	伊藤 裕康(14)	☎0166-35-5201
十勝支部	中村　章(1)	☎0155-62-0611
道南支部	小林 隆宏(8)	☎0138-46-4651
釧根支部	徳田 宏司(6)	☎0154-52-5052
オホーツク支部	新井　俊(10)	☎0157-31-3310
青森支部	三上　章(1)	☎017-729-0330
栃木支部	橋本 秀雄(3)	☎0282-27-2264
茨城支部	西野 郁郎(1)	☎0293-42-0239
北越支部	杉本 雅規(3)	☎0761-43-1151
神奈川県支部	川田　哲(3)	☎045-742-2301
東海支部	高尾 信彦(2)	☎053-451-0821
関西支部	新井 淑子(1)	☎078-261-2231
中四国支部	勝原　聡(3)	☎082-291-2104
九州支部	山田 昌人(3)	☎0965-52-5750
沖縄支部	伊波 重宏(5)	☎098-874-1818

■歯学部

支部名	支部長(期)	連絡先
北海道支部連合会	加藤　友一(4)	かとう歯科医院 ☎0134-23-8348
青森県支部	佐藤　孝治(2)	佐藤歯科医院 ☎0172-36-0412
秋田県支部	竹内　享(7)	竹内歯科医院 ☎0182-22-2001
岩手県支部	宮川　和亮(5)	宮川歯科クリニック ☎0198-23-1070
宮城県支部	佐々木 隆二(6)	ささき歯科 ☎022-383-8849
山形県支部	芳賀　俊和(5)	芳賀歯科医院 ☎0238-84-8107
福島県支部	早坂　弘(4)	早坂歯科医院 ☎0248-24-6480
茨城県支部	秦　博文(2)	秦病院 歯科 ☎0294-36-2551
栃木県支部	斎藤　真一(3)	斎藤歯科クリニック ☎0285-27-1234
群馬県支部	篠崎　広治(1)	しのざき歯科医院 ☎0276-48-0118
埼玉県支部	上野　洋(5)	上野歯科医院 ☎048-756-4499
千葉県支部	寺山　功(4)	葉山歯科医院 ☎0471-64-6480
東京都支部	石野　善男(2)	二子玉川ガーデン矯正歯科 ☎03-5491-5454

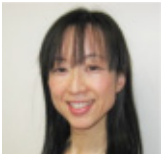
支部名	支部長(期)	連絡先
神奈川県支部	宮平　暁(5)	みやひら歯科 ☎045-590-4601
山梨県支部	白壁 正光(8)	しらかべ歯科医院 ☎0555-72-4182
石川県支部	久保 伸一郎(2)	粟津歯科医院 ☎0761-44-4852
新潟県支部	布施 路子(6)	静雅堂歯科医院 ☎025-723-8840
長野県支部	小池 文一(2)	小池歯科医院 ☎026-224-1482
愛知県支部	木村 英雄(1)	このめの歯科医院 ☎052-451-1182
京都府支部	相模 宣伸(5)	サガミ歯科医院 ☎075-311-2773
大阪府支部	西　一幸(1)	西歯科医院 ☎06-6793-7500
広島県支部	早志 卓展(6)	たかひろデンタルクリニック ☎082-422-9600
四国支部	谷本 良司(3)	医療法人谷本歯科医院 ☎0883-42-2069
九州支部	清川 宗克(3)	清川歯科・口腔外科クリニック ☎092-822-8805
沖縄県支部	玉城　均(1)	ながた歯科医院 ☎098-854-1182

■看護福祉学部　☎0133-23-1211
○**看護学科**(内線3688)担当:明野(実践基礎看護学講座)
○**臨床福祉学科**(内線3708)担当:池森(医療福祉臨床学講座)

■心理科学部　☎011-778-8931(学務部 心理科学課)
○**臨床心理学科**
○**言語聴覚療法学科**

歯学部附属歯科衛生士専門学校

〈創立年:1991年　正会員数:996名、準会員:23名〉



歯科衛生士専門学校
同窓会会長
梶　美奈子

1991年9月に北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校同窓会が発足して22年が過ぎました。2013年3月には、初めて3年制の課程を修了した同窓生が卒業します。

毎年4月に新入生を迎え、6月同窓会誌「いずみ」を発行、9月歯科衛生士公開講座、11月理事会、2月卒業生への講義、3月には卒業式そして他学部同窓会の皆様と協力してコラボ☆講演会を開催させていただいております。1年を通じた行事は、会員の皆様のご協力により滞りなく進めております。しかしながら歯科衛生士公開講座への既卒者の参加が少なく、同窓会総会や会誌への原稿投稿依頼など担当者が四苦八苦しながら、なんとか会を盛り上げようと頑張ってくれている次第です。活気のある同窓会を築くためにも会員の皆様の積極的な参加と忌憚のないご意見をお待ちしております。

http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~katakuri/
okahashi@hoku-iryo-u.ac.jp

歯学部附属歯科衛生士専門学校同窓会支部連絡先

北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校　☎0133-23-1211(内線3482)担当:大山・岡橋

卒業生を対象とした各セミナー・公開講座に関するお問い合わせ先　広報・教育事業部 教育研究推進課　☎0133-23-1129(直通)　e-mail:nice@hoku-iryo-u.ac.jp

私の学生時代

今、本学の教壇に立たれている先生たちは、
学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。
今回は明野助教と玉重准教授のお二人に、
当時の様子を語っていただきました。

出会い

看護福祉学部
看護学科
助教　明野　聖子

北海道内に4年制看護系大学が3校という時代、私は本学看護学科に入学しました。短大という選択肢もありましたが、一度に看護師・保健師という二つの受験資格が得られることや何よりも学生生活を長く楽しみたい！という不純な動機から、私の学生時代は始まりました。当時はクラスメイトに道外出身者も多く、1年生のスキー授業では、ゲレンデに現れたキツネを珍しがり（私にとっては飼い犬の餌を狙う身近な存在でした。）、アメ玉をやる東京出身の友人の姿は育った土地の違いを感じさせる光景でした。そんな道内外各地出身の友人たちと出会い、温泉旅行やスキー場巡りと楽しい時間を過ごしました。飲み会やサークル活動に熱を注ぎ過ぎ？！友人が鳴らす玄関のチャイム音が目覚ましになったことも何度かありました。苦楽を共にした友人たちは、今でもかけがえのない存在となっています。

富良野での宿泊スキー授業。ホテル隣のニングルテラスにて。（後列左が私）

成人看護学実習。学生控え室にて。（後列右が私）

卒業旅行先のハワイにて。ディナークルーズ。（中央が私）

さて、看護学生にはつきものの実習と国家試験。2～3年生の実習では、ユニフォームを着て、ステートを身につけ、病院に行くことに嬉しさを感じたのも束の間、記録や勉強に追われ、看護師さんに突っ込まれませんように！と祈る日々でした。術後安静が必要な整形外科の患者さんが自力歩行を繰り返し、「なぜだろう」とベッドサイドに足を運びました。自分のできなさと対峙し、いっそのこと熱が出て休んでしまいたいと思ったこともありました。「健康は生きる目的ではなく生活の資源です」という先生の言葉にハッとしました。患者さんや住民の方、指導者さん、先生方との出会いを通して、人を知り、自分を知り、看護を学ぶ、どれもが大変貴重な体験でした。国家試験を控え4年生も終盤に入ると、朝から晩まで図書館で友人たちと勉強に励みました。試験が終わると、結果はいざ知らず、ハワイへと卒業旅行に飛び立ちました。現実を離れ、南国の地で過ごす時間は何と解放感に満ちていたことでしょう！

学生時代のいくつもの出会いが今日の私を築いています。今もその同じ学び舎で、いくつもの出会いが私を成長させてくれていると思っています。

私の学生時代

心理科学部
言語聴覚療法学科
准教授　玉重　詠子

私は子どものころから何かと“とろとろ”としていて遅かった。兄がつけたあだ名はトロリー・バスだった。闘争心も探究心もなく、家庭での勉強をひとつもせずに（もちろん塾の経験もなく）、夕方のテレビドラマの再放送を毎日欠かさず見て、夜8時には就寝する生活をしていた。高校は“近くで入れるところに入る”という家庭の方針で、とくに受験勉強もせずに地域の公立高校に入学した。高校でも家庭勉強をせずに（やはり塾にも行かず）夜8時に就寝する生活をしていた。大学も“近くで入れるところに入る”という方針だったが、気付くと「あら？入れるところがないわ。」という状況だった。そこでやむなく予備校へ行った。予備校での“大学に入るための勉強”は、とても参考になった。

1年間の浪人生活を経て、やっと北海道教育大学に入ることができた。専攻が特殊教育（現在の特別支援教育）だったので、1年生から療育機関の見学などがあった。3、4年生では附属小学校の特殊学級（現在の特別支援学級）での教育実習があった。教育実習では男子トイレの小さいあさがおの中に小さい“うんち”を発見し、「だれのかしら？」と考えたこともあった。また、特殊学級の先生から誘われるままに校内宿泊学習や特殊学級の合同キャンプに行った。校内宿泊学習の夜は、納骨堂付近での“きもだめし”があった。私は暗い道端に隠れ、生徒がきたら「わっ！」と驚かせるお化け役だった。小学校3年生の女子生徒（ダウン症候群児）の前に「わっ！」と飛び出たところ、その生徒がとっさに「だ、だれなの、いったい？」とテレビドラマの科白のようなことばを発した。実際場面での言語能力の高さにひどく感動した。夜は教室で複雑な寝相をする生徒たちと一緒に寝た。夜中に気配を感じて眼を開けたすぐその前に生徒の寝顔があった時は、さすがに「おぉ」と驚いた。

療育機関の行事（炊事遠足）に参加しているところ。（左端が私）

このような無為に過ごした学生時代を振り返り、今こうして人並みに暮らせているのはその時々に出会った方々が親切にしてくれたおかげと感じる。今出会っている方々、これから出会うであろう方々にお返しできればと思う。

REPORT

授業レポート

心理科学部 言語聴覚療法学科［4年制］

高次脳機能障害学
3年次　必修

今回のレポーターは

3年 風間 あり彩 さん
北海道 札幌啓成高校卒

実力派ST（言語聴覚士）めざして「大学で学びたい」と本学に入学。1年次「解剖生理学」、ブタの喉の解剖でモチベーションをさらに上げ、大学で学ぶ醍醐味を満喫中。予習復習は欠かしません。

臨床実習や国家試験に直結する知識や技術、毎回覚えることがいっぱい、集中力は全開です。

脳を損傷すると何が起こる？

「高次脳機能障害」とは、交通事故や脳卒中で脳が損傷を受けることによって生じる様々な障害のことです。記憶力が落ちる、根気が続かない、判断力が低下するなど損傷の場所により多様な症状が出ます。モノとその名前が結びつかなくなる失語症もその一つです。

この授業では、脳の損傷で起こる認知、行為、記憶、注意、知能などの障害の発現メカニズムや経過、症状を理解し、臨床でメジャーな検査を演習します。たくさんある症状、検査法を覚える大変さはありますが、人間の脳が驚くほど複雑な働きで人間らしい「心」をつかさどっていることが見えてくる授業の一つです。

授業の前半で検査の概要と実施上の注意点を頭に入れます。田村至准教授のデモンストレーションVTRを見ることもあります。

臨床実習、国家試験も意識して。

検査は学生がペアを組み、ST役は白衣着用で実施します。実は白衣も大切な小道具の一つ。患者さんに白衣姿を前にする緊張感をもってもらい最大の能力を引き出すためなのです。

今日演習するのは面接形式の簡易知能検査5つ。就職後はもちろん、4年次の臨床実習で使うことが多く、国家試験にもよく出ると聞けばがぜん集中力も高まります。

動物の名前といったカテゴリー内、または「あ」から始まるなど条件に合う単語を1分間でいくつ言えるかカウントする「語想起課題」、母音を拾う「仮名拾いテスト」の他、言葉を使わない検査も演習します。

FABでは利き手、または麻痺のないほうの手で刀→拳→掌を作るテストもします。奥の学生は提示されたカードと同じ図形をブロックで作る検査「コース立方体組み合わせ検査」をしています。

FAB(Frontal Assessment Battery)は、STが鉛筆の背で机を1回たたいたら患者さんは2回、STが2回の時は1回というルールでたたいてもらいます。次にSTが1回の時は1回、STが2回の時は0回（たたかない）のルールで実施します。どちらも前頭葉の機能を見る検査ですが、後者はとくに行動を抑制する部分を見ます。問題があり抑制がきかないと、STが2回たたくと自分もたたかずにはいられないのです。

FABはフランスで開発された検査ですが、演習担当の田村至先生はその開発グループに留学先で会ったそうです。国際レベルの言語聴覚学の先端が近い!嬉しい気分になります。

学生同士でも、あります、緊張感。

さて皆さん、「患者役は学生だから、検査は難なくクリアできて、あまり勉強にならないのでは?」なんて思っていませんか。いえいえ、毎回難しさに直面します。とくに検査の説明。正しい結果を得るために過不足なく伝えるということは、思っているほど簡単ではありません。手順も最初からスムーズというわけにはいかず、いまはマニュアルと首っ引き、情けないほどぎこちないです。でも、4年次を迎えるまでには少しは自信をもてるようになりたい。だからやっぱり、復習あるのみです。

無意味なつづり、物語、それぞれから母音を拾う「仮名拾いテスト」。物語では仮名を拾いながら内容も把握します。なお、すべての検査で、解答は患者さんの要望があっても教えません。同じ検査を再度受ける可能性もあるからです。

患者役も意外に緊張するもので、患者さんの気持ちに一歩近づけた気がします。ST役はマイストップウォッチでタイムを計りながら正確に記録し、患者さんの様子も見ます。すべてを同時にできるようになるには、まだまだ修業が必要です。

担当教員より

高次脳機能障害領域での言語聴覚士の活躍を期待します

●田村 至 准教授

「高次脳機能障害学」は、言語聴覚士が臨床現場でかかわる機会の多い大脳の損傷によって生じる認知障害（失認）、行為障害（失行）、記憶障害、注意障害、認知症について、それぞれの原因疾患、症状、リハビリテーションを学ぶ科目です。特に記憶障害や注意障害を伴う認知症は、これからの高齢化社会において言語聴覚士が早期診断の要となる高次脳機能検査のみならずリハビリテーションを行う領域として重要です。この授業では、講義を聴いて知識を得るだけではなく、記憶や注意などの高次脳機能検査を学生同士で実際に施行することで、検査の施行技術の洗練、個々の大脳機能の理解、さらに対人的コミュニケーション能力の向上を目指しています。高次脳機能をさまざまな角度から検査する経験を通して脳の持つ驚異的能力を実感すると同時に障害を受けた患者さんの「こころ」も洞察できる力を学んでほしいと考えています。

学 友 会

学友会の活動について

「学友会」は学生の課外活動組織で、学友会長（学長）の下、「体育局」「文化局」「大学祭実行委員会」から構成され、学生により運営されています。体育局、文化局では、各局所属のクラブ・同好会から選出された学生が局長・次長・局員となり、クラブ間の調整や取りまとめ、またイベントの企画や実施を行い、大学祭実行委員会では委員長・副委員長の他、会計や広報など機能別の役割担当が置かれ、学生による大学祭の企画・運営が行われています。

学友会組織をまとめ、運営方針の策定や調整をはかるために「学友会運営委員会」が置かれています。この委員会は、体育局長・次長、文化局長・次長、大学祭実行委員長・副委員長、各学部学生部の教員から構成され、学生が議長となり、主にクラブ・同好会の新設・改廃・昇降格や学友会予算の運用・執行について協議しています。また、各クラブの戦績報告や、大学祭の企画の精査および実施報告、学友会施設について等、学生の課外活動に係る事項について総合的に議題に取り上げられています。

学友会はSCPと共に学生の代表とも言える組織です。学友会所属団体のみなさんで、学生生活をより良く過ごすための意見や要望がありましたら、各局長や委員長までお寄せください。

■学友会年間行事予定

4月	新入生オリエンテーションにて クラブ紹介（体育局・文化局）
5月	
6月	九十九祭（大学祭実行委員会）
7月	北海道地区大学体育大会（体育局所属クラブ参加）
8月	全日本歯科学生総合体育大会 （体育局所属クラブ参加）
9月	
10月	
11月	文化週間（文化局） 球技大会（大学祭実行委員会）
12月	
1月	
2月	
3月	

体 育 局

体育局を振り返って

体育局長　阿部 悠太（薬学部3年）

一昨年に在籍しているアメリカンフットボール部の当時の主将に薦められ体育局員となりました。特にやることはなく、ひとまず籍を置くだけということでしたので了承することにしましたが、現実はそう甘くはなく、主な活動内容として、体育局の定例会の開催をはじめ、各団体の1年間の経費などをそれぞれの代表の方と調整する予算面談や決算面談などがありました。そのうえ局長にまでなり、予想していなかった結果となっていました。

当初は各団体の活動を管理したり、多額のお金を運営するというとても大きな責任を背負うことに抵抗がありましたが、各団体や学生支援課の方々の協力もあり、特に問題も起こることなく任期が過ぎていきました。

また、学友会のそれぞれの局長が取り仕切る運営委員会の議長も務め、団体の新規設立や高額の物品購入などを各学部の先生方や学生支援課の方と協議しました。

大きな責任の伴う活動でしたが、任期を終えたときは充実感に変わり、体育局長を務めていた1年間はとても有意義なものになりました。成り行きで始めた体育局でしたがとても良い経験を積むことができ、人間的にも大きく成長できたと思います。協力して頂いた学生支援課の方々をはじめ、各団体の方々、そして当時の主将、本当にありがとうございました。

文 化 局

感謝を込めて

文化局長代理　鍛冶 麻衣子（薬学部2年）

私は今年度文化局長代理を務めさせていただきました。毎年、文化局執行部は11月上旬に文化週間という発表の場を設け、企画・運営を行っています。今年度もたくさんの方々に文化週間を楽しんでいただくため、学友会掲示板にて各団体の発表内容と日程をまとめたポスターを作成しました。

また、文化局の仕事は文化週間だけでなく、月に1度の定例会などを通して各団体の活動が円滑に行えるように日々向上を目指して運営しています。文化局長代理になった当初は、わからないことばかりでした。人に物事を伝える難しさや、資料の整理、定例会、文化週間の企画・運営など苦心した面もたくさんあります。しかし、今回このような立場となって、人をまとめる側の苦労や責任を実感することができ、今後社会に出ていくために良い経験をさせていただいたと思っています。

1年を振り返ると、月日はあっという間で、多くの方々の支えあってこの度無事に文化局長代理としての務めを終えることが出来ました。特に、学生支援課の方には大変お世話になりました。ご指導いただき本当にありがとうございました。

これから新しい代の文化局執行部が始まります。文化局の更なる活動の発展と躍進を心よりお祈り申し上げます。1年間どうもありがとうございました。

大学祭実行委員会

九十九祭を振り返って

大学祭実行委員長　横関 健治（歯学部3年）

大学祭実行委員会の委員長に就任が決まった時、私はとにかく先輩方が伝え続けてきてくださったものを後輩へ繋ぐことを第一に据え、「たくさんの方に来場してもらえる様な九十九祭にしたい」と考えました。

より良い九十九祭にするためには、反省点を見直し改善していくしかありません。そこで不安材料となったのが、人数の少ない実行委員でどのように運営するかという点でした。しかし、それは数多くの新入生が実行委員会に参加してくれたことと、実行委員全員の頑張りにより解消されました。

前夜祭には学生や教職員の方々はもちろんのこと、子供を連れた一般の方々など、多くの方々が足を運んでくださり、今回2度目の試みとなる打ち上げ花火の際には、盛り上がりをみせていました。九十九祭当日は途中で雨が降ることもありましたが、実行委員全員の頑張りをはじめ多くの方々の協力により、大きなトラブルもなく無事に成功させることができました。しかし、同時に多くの反省点も得られました。新学部が創設される来年度は、その反省を活かして、実行委員も一致団結し、より多くの人が楽しめる九十九祭にしていきたいと思います。

最後になりましたが、今年度の九十九祭開催にご協力いただいた学生、教職員、企業の方々にこの場をお借りして、心から感謝を申し上げます。ご協力ありがとうございました。

EDITOR'S NOTE

別れと新たな出会いの季節がやってきました。卒業にはGraduationの他にCommencementという訳語があり、これには出発、あらたな世界に向けての船出という含意があるようです。新しい職場でどんな方々と一緒にどんな仕事をしていくのか。彼らの健闘を期待しエールを送りたい気持ちでいっぱいです。邂逅という言葉が示すように、どのような人と巡り合うのかは時にその人の人生にとって決定的な意味を持つことがあります。人との出会いについて、作家の宮本輝さんの近著『水のかたち』の中に素敵な一文を見つけたので紹介致します。「善き人との出逢いやつながりが、思いもかけない幸福や幸運を呼ぶ」、「善き人とは、他者の痛みや悩みを我がことのように感じ、何とか力になってあげようと行動を起こす人と定義したい」。これから先、善き人と出会い豊かな人生を切り開いていけますように、そして自らが他者にとって善き人となることができますように、在学生とともに卒業生諸君の健闘をおおいに期待する次第です。（K.S記）

ADVANCE
北海道医療大学広報誌　No.154

STAFF● 増田 園子　浜上 尚也　安彦 善裕　中山 英二　鎌口 有秀　志渡 晃一　竹生 礼子　富家 直明　榊原 健一　杉原 佳奈　長原 利明　宮崎 隆志　國見 明美　戸藤 成人

発 行 日 ● 2013年3月13日

編集・発行● 北海道医療大学広報・教育事業部 入試広報課
〒061-0293　北海道石狩郡当別町金沢1757
☎(0133)22-2113
http://www.hoku-iryo-u.ac.jp

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしております。
E-mail:nyushi@hoku-iryo-u.ac.jp

■北海道医療大学の教育理念
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。